



本県の輪菊栽培では、二酸化炭素施用などによる環境制御技術の導入が進んでいます。二酸化炭素施用に合わせた適切なかん水方法の検討はなされていません。現在は数日置きに手動で多量のかん水を行う方法が主流であり、手間がかかる上に、晴天が続くなど必要な時にかん水できないことも多くあります。そこで、日射量に応じて自動でかん水を行う日射比例かん水が切り花品質に及ぼす影響を明らかにしました。

理を行いました。その結果、日射比例かん水を行うと、切り花長が長くなり、ポリウムが増加して最上位規格の2Lが増加しました。また、か

輪菊「神馬」日射比例かん水

手動と比べ2L増加 作業時間は約9割減

かん水方法の違いによる切り花品質と作業時間の違い

処理	収穫日	切り花長 (cm)	2L率 (%)	かん水作業時間 (h/10a・作)
日射比例かん水	1月25日	103	79.4	0.8
慣行かん水	1月23日	100.9	65.7	7.5

※2L率は90cm調製重65g以上の切り花の割合
 ※かん水作業時間は、日射比例かん水は機器設定にかかる時間、慣行かん水は圃場（ほじょう）までの移動および出水・止水にかかる時間を積算した

秋輪菊「神馬」を10月5日に植え付けし、11月11日から日射比例かん水と慣行かん水（数日置きに手動で多量のかん水を行う）の各かん水処理を開始し、11月30日に消灯処

かん水の作業時間も日射比例かん水は手動かん水と比較すると、約9割削減することができました。以上のことから、日射比例かん水を行うことによって、作業時間を大幅に抑えることができ、2Lが増加することによって所得向上が期待できます。（長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門花き・生物工学研究室主任研究員 久村麻子）